

五月十四日

朝屋上菜園に生ゴミ埋め、雑草取り他。イチゴをつんで喰べる。甘酸っぱい味でおいしい。思い立って下の菜園にナス、トマト、ピーマンの苗植える。レンギョ、ノコギリ草も植える。上の菜園に再び上り、ナス、ピーマン、サルビアを植える。十二時半迄土いじりで過ごす。十五時研究室。いくつかのプロジェクトをすすめる。Gスタジオの為に森川嘉一郎君来室。手違いがあり、Gスタジオは学生不在で、森川氏と若干のミーティング。ドイツ、ワイマールのバウハウス大学でJ・グライターが建ち上げたインターナショナルGスタジオのプラン、これは世界中を共に動かそうという、我々のアイデアだったか、J・グライターは持前のステディーな企画力でドイツで先ず実現しようとしているのだが、そのGスタジオとTOKYO・Gスタジオの連携をリアライズする事を決めた。森川君の順番である。未来は仲々に困難さに満ちているが、Gスタジオの一つの核が少しは視えてきたように思う。上海、モスクワ、ウウベキスタンを関連づけたい。森川君、石井君等と早大前のファミリーストランで談笑し、十七時半研究室に戻る。社長若松氏と連絡、今夕会う事になるかな。来週は北京に行かねばならないので、その準備をする。

十八時半若松氏来室。プロジェクトCに関するビジネスモデルに関しての打合わせ。十九時半高田馬場もめん屋で若松氏と会食。モスクワ、チエルノゴロフカワークシヨップの打合わせで安藤十五分程参会するも実りなし。二十三時迄、青森若松家の話し

等を聞き、色々と考えさせられた。若松氏の社は現在、日本で六、七番目位のITカンパニーなのだが、ITビジネスは一、二番じゃなくては世界には通用しない現実があり、それで若松氏は頑張つて他領域まで踏み込んでいるわけで、その辺りが解らぬと新世界はのぞき込めない。人それぞれに苦しい試行を重ねていて、プロジェクトの担当に関して、週初めに決断する。

五月十五日

七時半起床。新聞を読む。ウズベキスタンは暴動状態になっている。ソ連邦の崩壊は中枢のロシアではなく、周縁に混乱状態を引き起し続けている。

藤森照信氏より「人類と建築の歴史」送られて、読む。相変わらず面白い。縄文建築、巨石文化の体験からの直観が歴史の形式を借りて述べられている。カバーコラムで書評してみるつもりになる。最終章のまとめは余りにも大胆な仮説で、これが藤森流なのだが、私なりにいささか荒いと感じた。しかしながら、読み始めると終りまで止まらない筆力は益々高まっているようだ。

午後より土いじり、下の菜園にトウモロコシ、キュウリを植える。ひまわりも植えた。屋上菜園には夕顔、ひまわり、矢車草、風船かづらの種をまいた。十五時半修了。と同時に雷をともなつた激しい夕立来る。実に良いタイミングであった。十六時前、日曜日をつぶして北京のビジネスモデル作成している若松氏に電話を入れる。銀河鉄道計画モスクワスケッチ。